

指 定 理 由 書

名 称 ・ 員 数	錠前牡金具 1 点
法 量	全長 4.94cm、弦受け部長 3cm、施錠部（バネ軸）長 1.94cm、重さ 7 g
所 有 者	平塚市（平塚市教育委員会所蔵）
所 在 地	平塚市浅間町 9 番 1 号
種 別	平塚市文化財保護条例第 2 条第 1 項に基づく有形文化財（考古資料）

資料は、神明久保遺跡第 3 地点から出土した銅製の錠前牡金具 1 点である。

錠前としては小型の部類に入り、花文状の平板部の下には蟬とみられる昆虫を意匠した金具が取り付けられている。残存状態は良好である。当該資料の構造上の特徴として、施錠部のバネが横位置と縦位置の二段となっている点が挙げられる。こうしたバネ構造は、正倉院の伝世例などに見られるものの、遺跡からの出土例として確実なものは僅少である。材質・構造・意匠性・製作技法の観点から、工芸品としても卓越したものと評価される。

このような錠前は、長岡京、平安京北野廃寺、薩摩国府といった、中央・地方の政治的中心地からの出土が多く、相模国府推定地内にある神明久保遺跡もまた、同様に政治的中心地からの出土と位置付けられる。

これらのことから、当該資料は、古代平塚を考究する上で欠くことができない資料であるとともに、古代官衙・地方寺院研究にとって貴重な資料である。

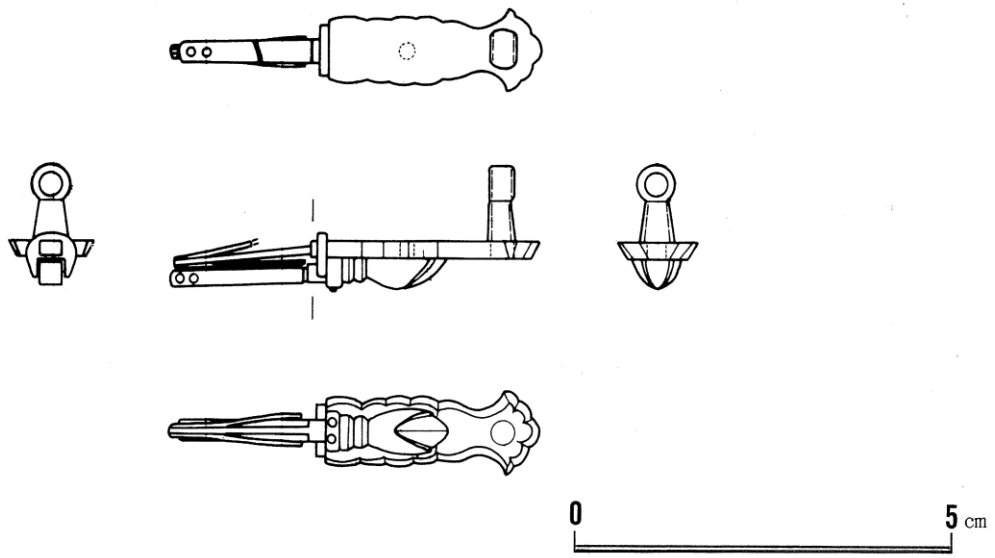
参考文献

神明久保遺跡調査団 1989『神奈川県平塚市 神明久保遺跡－第 3 地区－』

合田芳正 1991「平塚市神明久保遺跡出土の錠前について」『平塚市文化財調査報告書』第 26 集 平塚市教育委員会

合田芳正 1998『考古学ライブラリー66 古代の鍵』ニュー・サイエンス社

平塚市博物館 2002『平塚市考古資料 50 選』



実測図（合田 1991 を一部改変）



写真（平塚市博物館 2002）